

茨城県霞ヶ浦環境科学センター

中期運営計画実績評価書

(平成 23 年度から平成 27 年度)

平成 28 年 11 月

茨城県霞ヶ浦環境科学センター

評価委員会

## 霞ヶ浦環境科学センター 実績評価

【総合評価】 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取組を実施していると判断できる。	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価
	A-	A+	A+	A+	A+	A+

### 【委員からのコメント】

・5年間の取組を通じて、着実な改善が図られているものと評価する。特に、環境学習・市民活動との連携・支援、広報・情報発信については、質的な向上が見られる。  
 ・計画期間中に急増した事案への適切な対応、外部資金の獲得、査読付き論文の掲載などは高く評価する。  
 ・年度毎の評価委員会等からの提言や意見を真摯に受け止め、関係部署と協働しながら組織や各種活動をよりよいものにしていくと努力した経緯も評価できる。  
 ・霞ヶ浦勉強会の開催など、内部人材育成のための有意義な取組が図られているが、まだ全体へは波及していないように感じられる。人材の育成については、人事制度のあり方も含め引き続き改善を進めていくことが必要と考える。  
 ・実験データの解析や仮説検証における批判的精神などの点で、科学研究機関としての専門性が遺憾なく発揮されているとは言い難い面があると感じる。客員研究員も十分に活用しながら、レベルアップを図っていただきたい。  
 ・センターは、試験研究機関であると同時に行政機関でもあることから、現実の課題に対する解決策の解明や提案についても、一定の責任を担っていると考えられるので、そのような視点での研究課題の重点化や広報・情報発信の強化等に取り組んで欲しい。  
 ・平成30年開催の世界湖沼会議を見据え、全国の地方環境研究所等のネットワーク化を進め、センターがそのハブ機能を担うといった、県内はもとより日本の湖沼環境研究拠点として認識されていくような活動に期待したい。

### i) 県民に対して提供する業務

#### 1) 試験研究(完了課題)

年度	研究課題	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価
H23	1) 有機炭素の挙動の解明に関する研究	A					A
	2) 脱窒現象の解明及び窒素除去に関する研究	A					
	3) 微少粒子状物質(PM2.5)の地域特性に関する研究	A					
H24	1) 有機炭素の挙動の解明に関する研究		A				
	2) 脱窒現象の解明及び窒素除去に関する研究		A				
	3) 微小粒子状物質(PM2.5)の地域特性に関する研究		A				
H25	1) 植物プランクトンの群集構造に影響する環境因子の解明			A			
	2) 有機炭素の挙動の解明に関する研究			A			
	3) PM2.5成分分析調査			A			
H26	1) 植物プランクトンの群集構造に影響する環境因子の解明に関する研究				A		
	2) 北浦(銚田川)流域の蓄積窒素に関する研究				A		
	3) PM2.5成分分析調査				A		
H27	1) 植物プランクトンに関する調査研究					A	
	2) 流域対策に関する調査研究(その1) 農地からの負荷削減					A	
	3) 光化学オキシダント					A	

### 【委員からのコメント】

・計画期間中に行われた試験研究については、着実な取組が行われ、一定の成果が上がっていると評価する。  
 ・霞ヶ浦湖内、流域及び県内環境の実態に即した研究テーマが設定され、実施されている。特に、霞ヶ浦湖内環境に関する様々な研究課題及びその成果は、平成30年の世界湖沼会議でアピールされるべきものだと考える。  
 ・地上水や地下水中の窒素濃度上昇は世界的な問題になってきており、霞ヶ浦流域としてどのように対策に取り組んでいくかは非常に重要な研究課題であり、その取組の結果を定期的に公表していくことは大切であるので、引き続き研究を継続していただきたい。  
 ・一方で、試験研究全体として、施策との結びつきや貢献が見えにくい、データを取ることに止まっていて試験研究として物足りない、といった弱点が見受けられる。アウトプット、アウトカム両面におけるレベルアップを期待する。

評価項目	H23	H24	H25	H26	H27	実績 評価
i) 県民に対して提供する業務						
2) 事案対応	A	AA	AA	AA	A	AA
3) 環境学習, 市民活動との連携・支援等	B	A	A	A	A	A
4) 広報・情報発信	-	A	A	AA	AA	AA
ii) 業務の質的向上, 効率化						
1) 全体マネジメント ①研究体制	A	A	A	A	A	A
1) 全体マネジメント ②客員研究員の活用	A	A	A	A	A	A
2) 他機関との連携	A	A	A	A	A	A
3) 外部資金の獲得方針	B	A	A	A	AA	A
4) 県民ニーズの把握	A	A	A	A	A	A
5) 内部人材育成	A	A	A	A	A	A
6) 研究評価	A	A	A	A	A	A